

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	地域高規格道路 <small>かなやおまえざき</small> 金谷御前崎連絡道路 一般国道473号 <small>かなやさがら</small> 金谷相良道路Ⅱ	事業区分	一般国道	事業主体	静岡県
起終点	自：静岡県島田市菊川 <small>しまだ きくがわ</small> 至：静岡県菊川市倉沢 <small>きくがわ くらさわ</small>			延長	3.3 km
事業概要					
<p>金谷御前崎連絡道路は、新東名高速道路から国道1号、富士山静岡空港、東名高速道路、国道150号を結び、重要港湾御前崎港に至る延長約30kmの地域高規格道路である。</p> <p>事業区間である金谷相良道路Ⅱは、国道1号と富士山静岡空港アクセス道路を結ぶ延長3.3kmの道路であり、陸・海・空の交通ネットワーク形成、旅客・物流需要の増大、地域の産業集積及び振興を目的としている。</p>					
H23年度事業化		都市計画決定なし		H25年度用地着手	
H25年度工事着手					
全体事業費	約217億円	事業進捗率	約91%	供用済延長	— km
計画交通量	13,000台/日				
費用対効果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)
	(事業全体) 1.5	21/236億円		353/353億円	基準年
	(残事業) 16.5	事業費：20/235億円 維持管理費：1.6/1.6億円		走行時間短縮便益：337/337億円 走行経費減少便益：11/11億円 交通事故減少便益：4.2/4.2億円	令和4年
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.3~1.7 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=14.2~18.7 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.5~1.5 (事業費±10%) 事業費：B/C=15.1~18.2 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.4~1.6 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=16.2~17.0 (事業期間±20%)</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> 整備が進んだ金谷御前崎連絡道路沿線には企業の進出が顕著であり、当路線の整備により東名、御前崎港、国道1号と繋がることで道路ネットワークが強化され、さらなる企業の進出が期待される。 富士山静岡空港の乗降客数や貨物取扱量、御前崎港の貨物取扱量はコロナショックのため減少傾向であるが、拠点へのアクセス性向上により、コロナ回復後の需要増加が期待される。 					
関係する地方公共団体等の意見					
沿線市町で組織する御前崎奥大井連絡道路整備促進期成同盟会から、「陸・海・空」の交通ネットワークが形成され、地域連携の促進や企業活動の活性化による物流・旅客の拡大等、大きなストック効果につながるのと同時に、防災力の強化による大規模災害時における「命の道」としての役割が、今後ますます期待されることから、引き続き整備を促進し、一日も早い開通を要望されている。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
<ul style="list-style-type: none"> 中部横断自動車道が山梨～静岡県間全線開通 (R3.8) 本事業区間が「重要物流道路」に指定 (R4.4) 					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率100%、事業進捗率約91%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
引き続き、早期開通に向けて事業を進める。					
施設の構造や工法の変更等					
新技術・新工法の活用、建設発生土の他工事流用によりコスト縮減を図る予定。					

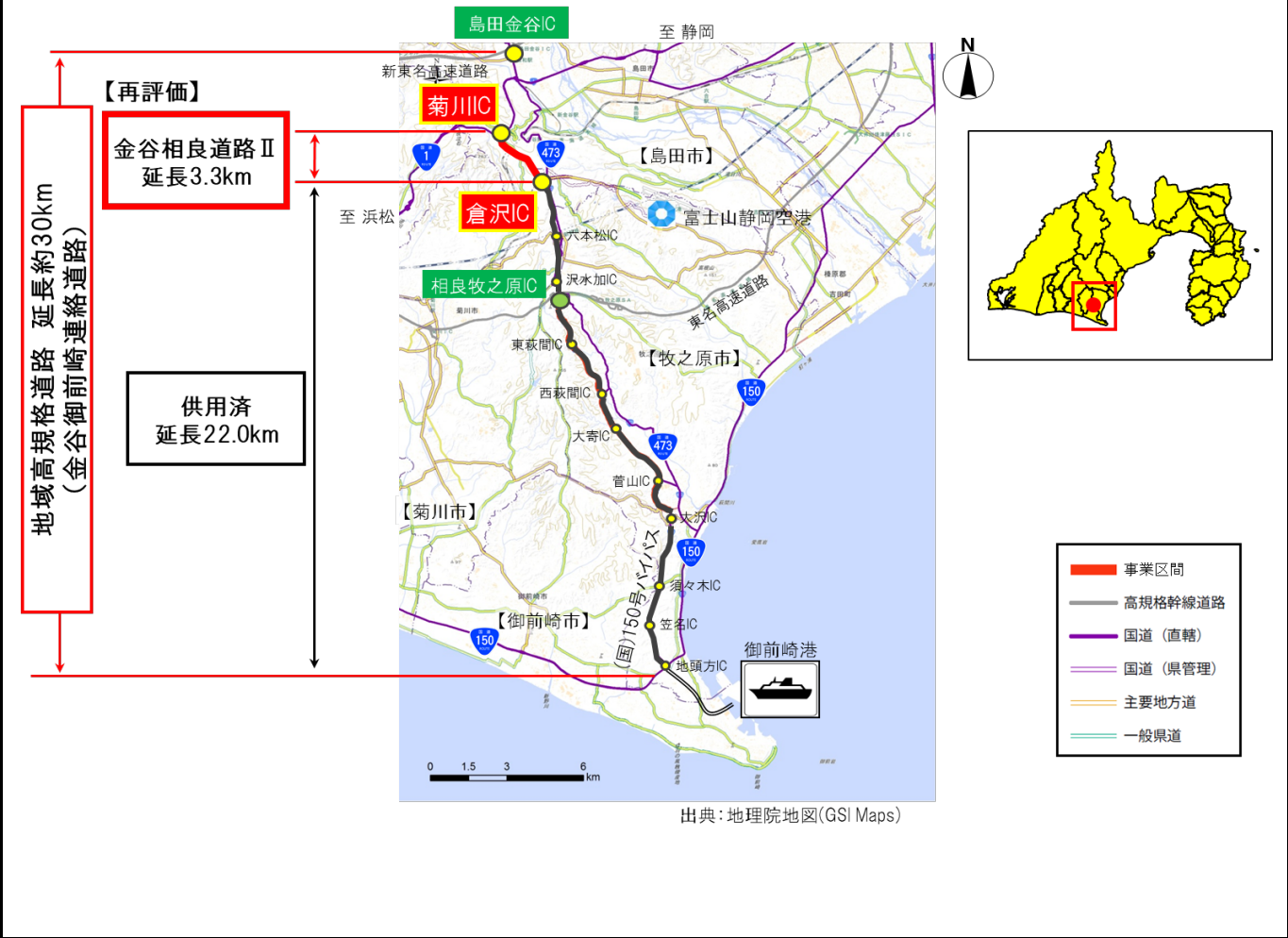
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。